

第3回刈谷市行政評価委員会 議事録

- 日 時 平成23年9月30日（水）午前10時00分～12時00分
- 場 所 刈谷市役所 701会議室
- 出席者 昇秀樹、吉本理沙、近藤克麿、天野櫻子
- 欠席者 都築繁幸、加藤時彦、浅井裕章
- 事務局 企画部長、企画部企画政策課長 他

（企画部長あいさつ）

暑い夏の盛りの8月3日、4日両日は、行政評価のヒアリングを含めてご尽力をいただきましてありがとうございました。本日は、第3回の刈谷市行政評価委員会を開会させていただきたいと思います。会議に先立ちまして、まずは昇委員長よりごあいさつをいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

1 委員長あいさつ

昇 委 員 長 暑い夏にご苦勞様でした。今日は、まとめたものについてご審議いただくということです。よろしく申し上げます。

2 議事

- （1）「平成23年度 刈谷市行政評価外部評価実施結果報告書（案）」について
事務局より資料内容の説明後、委員による報告書の最終確認を実施
※欠席者に対しては、事前に内容について意見を確認済み

- （2）平成23年度 刈谷市行政評価委員会の今後のスケジュールについて
（事務局より、今後のスケジュールについて説明）

委 員 長 事務局の説明について、質問や意見があればお願いします。

委 員 員 委員会の意見を参考にして事業を組みなおすが、すぐには廃止することは難しいということでした。例えば、愛知県で話を伺った時には、補助金がついている事業なので、廃止すると失業してしまうので3年は止められないという話もありました。すぐにできない理由もしっかりと説明してください。

事 務 局 なぜ対応できないか、なぜできないかの理由も説明した上で返事をさ

せていただきます。

委員 私が報告書の10ページで言ったような市役所と連携してほしいという事は、個人情報保護法でできないことはわかっているので、そういう理由もお願いします。評価しただけで改善されないということにはならないようにしてください。

事務局 はい。

委員 今回の外部評価を20事業やったことは私たちにも勉強になったし、きっと職員の人たちにも違う気づきがあったと思います。20事業の他にも多くの事業があるので、それについては外部評価ではなく内部評価で、それぞれの部署が自らと違う部署で検討していただくとか、そういう内部評価はやっていくのでしょうか。

事務局 すべての事業について自己評価でシートを作成して公表していきます。

委員 自己評価ではなく、他部署を評価することもやった方が、相対的な事業計画になるのではないのでしょうか。自分のところでは気づかないこともあるが、他部署の人が相互関係の評価をすると、いるものといらないものがはっきりしてくるのではないのでしょうか。

事務局 市の中に当然監査制度はありますが、それにプラスして、予算査定の場でこういった考え方にもとづき査定を進めてく中で、来年度に活かしていく形で進めたいと思います。900事業を同じようにやることは、時間的にも現実的に不可能ですので、査定の場で直接CheckやActionに活かさせていただきたいと思います。

委員長 民間企業では、他部署が評価をすることはしているのですか。

委員 常にやっています。内部査定評価は3ヶ月に1回それぞれの部署が集まって事業計画を発表します。部長が集まって、それについて他部署が評価します。

それとは別に月に1回、安全衛生協議会のようなものがあり、それぞれの部署の安全対策、業務対策について、各部署をチェックして評価して回って、話し合うということを必ずしています。

外部評価に漏れて安心している部署があるといけないですが、外の意見が入ってくると新しい気づきが出てきます。

委員長 それをやるとしたら部長会議ですか。

- 委員 部長会議はやった方が良くと思います。
- 事務局 現状では年に1回、主だった事業を戦略計画として部長が発表して、それに対して意見をいただくというものがあります。
- 委員 年1回だと修正が効かないですね。
- 事務局 職員の事業改善提案も自分のポジションを超えて全庁的にみた提案をするので、それが各部に戻ったときに、提案にもとづいて審査や評価するということはしています。
- 委員 審査を受けたことに対しては必ずフォローアップが入ります。次の3ヵ月後の内部監査では、前回の指摘事項をどのように改善したかを発表します。
- 自分たちの部署では気づかないことを、他部署が指摘することがよくあります。
- 委員長 他の部署のことをどれくらい知っているものなのですか。
- 委員 総務の場合は90%くらいを知っていますが、他部署では部長会をやらないと10%くらいしか知り得ないと思います。毎月の部長会をやると60~70%くらいは知ることになると思います。
- 委員長 これは、行政では国も、県も、市町村もほとんどやっていないことだと思います。
- 委員 こういうことをやらないと、市としての大きなまとまりが見えなくなってしまうのではないかと思います。
- 委員 今、市でやっていると言ったのはどういうことですか。
- 事務局 部としての戦略だけで、900の事業が挙がるわけではありません。
- 委員長 冬の予算査定と春や夏の戦略があり、だいたい春か夏に企画が中心になって市の重要事項を話し合い、冬の予算査定で具体化するというのが、県や市町村のやり方です。
- 委員 民間のやり方も少しでも反映していくと、より良い市の運営ができるのではないのでしょうか。
- 委員長 三重県の北川知事がやろうとしました。知事が繰り返し言うので部長会でやっていたが、行政には他部署のことを言わないという暗黙のルールがあって、北川知事が辞めた後はもとの部長会議に戻ったということです。共通に使えるノウハウはいろいろあるがセクショナリズムであまり伝わっていないこともけっこうあります。

事務局 県に比べたら組織は小さく、人事異動で行き来もして1つの部にずっといることはないので、そこは違うと思います。

委員長 頭の片隅に置いておき、活かせるものは活かしていってください。

事務局 ありがとうございます。

委員長 他はよろしいでしょうか。

委員 事務事業評価シートの公表をして、市民からの意見を募集したりもするのですか。

事務局 特に募集はしないですが、意見があれば伺います。

委員長 今日は以上で終わります。ありがとうございました。

以上。